



ガイドラインにないリアル精神科薬物療法をガイドする

仙波純一 著
 新興医学出版社
 2021年5月 240頁
 本体価格 3,900円+税

本書の著者である仙波純一先生は、われわれ“アラ還”世代（60±5歳）の精神科医にとっては、2002年に出版されたStephen M. Stahl先生の『Stahl’s Essential Psychopharmacology: Neuroscientific Basis and Practical Applications（精神薬理学エッセンシャルズ—神経科学的基礎と応用—）』の監訳者としてのイメージが強いと思う（若干の異論は認める）。『精神薬理学エッセンシャルズ』はその後も版を重ね、現在、第5版の邦訳版が出ているが、初版を手にとったときのイラストの色使いや割り切った説明に対して驚愕すると同時に、この本の監訳者というのはどのような御仁であるのか気になっていた。

本書の奥付にある著者略歴によれば、仙波先生は1977年（昭和52年）に東京医科歯科大学医学部を卒業された後、神経精神医学教室に入局、同大学院修了後、医員、助手、講師を経て、1993年に放送大学助教授、2000年には同大学教授に就任されている。書評子が最初に見た『精神薬理学エッセンシャルズ』は、仙波先生が放送大学の教授をお務めになっていた頃の作品ということになる。その後、2007年にはさいたま市立病院精神科部長を経て、2020年からは東京愛成会たかつきクリニックに地域の精神科医として勤務されているとある。ご専門は精神薬理学で、本誌の編集委員会も長くお務めいただいた（不肖アラ還書評子の前任者である）。

『精神薬理学エッセンシャルズ』初版本から、時は流れて約20年後、今度は監訳本ではなく、仙波先生のオリジナル本である。アラ還精神科医の書評子の興味がそそられないわけがない。

まず最初に気付くのが、本書の章立てがDSM-5準拠になっていることである。第1章の神経発達症群にはじまり、第16章の医薬品誘発性運動症群および他の医薬品有害作用に至るまで、本書を辞書的に用いたいDSM世代の精神科医にとって、非常に使いやすい作りになっている。

また、番外編として、器質性精神病（ステロイド精神病、SLE精神病、パーキンソン病の非運動症状）への薬物療法も紹介されている。

本文を見てみよう。まず気付くのは、「薬物療法についての系統的レビューやメタアナリシスと診療ガイドライン」という項があり、疾患（状態像）別のエビデンスの有無がきちんと紹介されている。『ガイドラインにない…』という本書のタイトルに騙されてはいけない。著者の経験のみから書かれた本ではないのである。系統的レビュー、メタアナリシス、診療ガイドライン（以下、「質の高いエビデンス」とする）があるものに関しては、その詳細に至るまで紹介がされている。例えば「知的能力障害（知的発達症）の精神症状」に関しては、抗精神病薬の有用性を示唆するメタアナリシスと、統計的有意差はなかったというメタアナリシスがあることや、世界精神医学会（WPA）やNICEのガイドラインがあることが紹介されている。さらに、選択すべき薬物療法や中止法について、エビデンスや仙波先生のご経験をふまえて記されている。一方、「短期精神病性障害」に関しては、系統的レビューや診療ガイドラインはない旨が書かれている。

上記以外にも、いくつかの疾患や状態像に関しては質の高いエビデンスがあり、それらに基づいた薬物療法が提示されているが、さまざまな疾患や状態像では薬物療法に関するデータに乏しく、それゆえ薬物の選択や投与方法については、著者の長い年月に及ぶ経験から紡ぎ出された内容が記されている。意外な疾患で質の高いエビデンスがあったりなかったりするので、是非とも（辞書的な使用ではなく）通読してほしい。むろん、質の高いエビデンスがあるものに対してはそれらを準用した薬物療法が、ないものに対しても著者の経験に基づく薬剤選択が記されており、実にかゆいところに手が届く内容となっている。

もう1つの本書の特徴として、昨今、問題となることも多い適応外使用の問題に対して、正面から向き合っていることが挙げられる。本書の巻頭に、適応外処方の概要、難治例や緊急性が高い場合の適応外使用、保険制度上の問題などに関して、文献的考察や著者の意見を交えて紹介されている。また、本文中においても、すべての項目で、適応外使用の問題点に関するコメントが記されている。

本書はおそらくは、著者の近著『研修医・総合診療医のための精神科ファーストタッチ』（じほう）と同様に、精神科専攻医をはじめとした駆け出しの精神科医に向けて書かれたものと推測されるが、アラ還精神科専門医にとっても勉強になるほどにレベルの高い内容である。ご一読されたい。

（山田和男）